

科目名	実習ゼミ I			授業の種類	演習	講師名		
授業回数	30回	時間数	60時間 (2単位)	配当学年・時期	言語聴覚士科4年		必修・選択	必修
〔授業の目的・ねらい〕								
言語発達障害の評価および訓練に関する知識を深める。								
〔授業全体の内容の概要〕								
発達段階、障害特性による訓練・指導について演習を通じて学ぶ。								
〔講師の実務経験〕								
〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕								
言語発達障害児に対し、客観的な評価をした上で訓練計画を立案および実施できる。								
回数	講義内容							
1	聴覚機能検査(障害部位との関係、オーディオメータ、オーディオグラム)							
2	聴覚機能検査(標準純音、自記オーディオ、内耳機能検査)							
3	聴覚機能検査(語音検査、ハイリスクファクター)							
4	聴覚機能検査(新生児、乳幼児検査)							
5	聴覚機能検査(他動的検査:ティンパノメトリ、耳)							
6	訓練法基礎講義(1):前言語期							
7	訓練法基礎講義(2):前言語期							
8	訓練法基礎講義(3):前言語期							
9	訓練法基礎講義(4):単語レベル							
10	訓練法基礎講義(5):理解と表現面に顕著なアンバランス							
11	訓練法基礎講義(6):全体的遅れ							
12	訓練法基礎講義(7):全体的遅れ							
13	訓練法基礎講義(8):全体的遅れ							
14	訓練法基礎講義(9):文字・数							
15	訓練法基礎講義(10):文字・数							
16	評価の復習							
17	発達段階、障害特性別訓練							
18	2の講義に基づく演習訓練プログラム立案、実施(1)							
19	2の講義に基づく演習訓練プログラム立案、実施(2)							
20	言語獲得単語レベルで発語なし							
21	5の講義に基づく演習訓練プログラム立案、実施(1)							
22	5の講義に基づく演習訓練プログラム立案、実施(2)							
23	理解と発語に顕著な差がある場合							
24	8の講義に基づく演習訓練プログラム立案、実施(1)							
25	8の講義に基づく演習訓練プログラム立案、実施(2)							
26	全般的な遅滞(理解、表現可だが遅れている)							
27	11の講義に基づく演習訓練プログラム立案、実施(1)							
28	11の講義に基づく演習訓練プログラム立案、実施(2)							
29	療育指導について							
30	まとめ							
【 準備学習・時間外学習 】								
【 使用テキスト 】								
書籍名			著者名			出版社		
言語聴覚士テキスト 第3版			大森孝一ほか			医歯薬出版株式会社		
【 単位認定の方法及び基準(試験やレポート評価基準など) 】								
試験の結果を100点満点として成績を評価する。試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。								